

## Part 1

N：やあ、ミランダの明日の予定を知りたいんだ。

A：分かったわ。入って。

N：誰がコーディネートしたの？

A：これ？自分で適当に合わせただけよ。

N：来て。ん～、回って。素晴らしいね。本当に、

A：そう？

N：美しいよ。本当さ。私の役目は終わったな。

A：おお。

N：お祝いだ。シャンパンを持ってくるよ。

A：いいわ。何に乾杯するの？

N：夢のような仕事に乾杯するのさ。大勢の女性が就きたい仕事だ。

A：数ヵ月前に手に入れたものね。

N：君のことじゃないよ。

A：ん？

N：ジェームズ・ホルト。

A：ん？

N：マッシモ・コルテリオーニがジェームズの会社に投資して世界市場に進出するんだ。

A：うん。

N：バック、靴、香水。全てやっているんだ。そしてジェームズにはパートナーが必要だ。  
そのパートナーは私になる。

A：ミランダは、

N：いやいや、ミランダは知ってるよ。彼女の推薦だからね。まさか。でないと、

A：でもでも、辞めてしまうのね。あなたのいない Runway なんて想像できないわ。

N：分かってる。でも、すごく興奮してるんだ。18年ぶりに自分の人生を変えられるんだ。  
すごいよ。パリにまた来れるし、その時は本当にパリを満喫できる。

A：とにかく、おめでとう。ナイジェル、苦労が報われたわね。

N：その通りだよ。サイズ6。

A：サイズ4よ。

N：本当？

A：乾杯。

N：君に乾杯。

A：私たちに。

N：うん。

## PART 2

A：はい、ミランダの行動には私が理解できないこともあるが、

C：あなたは彼女のことを憎んでいます。それを受け入れてください。

A：いいえ

C：彼女は有名なサディストです。

A：わかりました。彼女はタフです。しかもしもミランダが男性だったら、彼女がどれほど  
すごい人かは誰も彼女についてなにも気づけないでしょうね。

C：ごめんなさい。それは不可能です。信じられません。あなたは彼女を守るの？

A：そうだよ

C：あなたは本当に目を丸くしながら新聞を配っていた女の子ですか？

あなたは闇へ渡ろうとしています。

A：わたしはそれに怒っています。

C：そうするべきではありません。魅力的ですね。

### Part 3

A：どこに向かっているのかわかる？だって、、、

C：大丈夫だよ

A：私はわかんないよ

C：心配しないで、僕はこの街を自分の庭のようにしているんだ。

ここは世界で一番好きな場所なんだ

ガートルード・スラインはかつて「アメリカは私の国であり、パリは私の故郷である」と言っていたんだ。本当だよ

A：あなたの仕事って？そんなものを書き留め、ファイルにして、私たち女の子向けの記事にするの？

C：僕はクリスチャン・トンプソンだ、これが僕のやり方だ。

A：それがあなたのやり方なのね、なるほど

C：僕はフリーランスだから自由な時間がたくさんあるんだ。

A：なんでみんながパリに夢中なのか私には理解が出来なかつたけど、、、

素晴らしい街だ

ダメだ、ごめんなさい、ダメなの。ネイトと数日前別れたばかりだし、、、ああ、ワインを飲みすぎてよく聞こえないし、見えないし、頭もうまく働かないよ。

私はあなたのことほとんど知らないし、見ず知らずの街にいるのにもう言い訳は尽きたわ

C：良かった。

#### PART 4

A：はい。

C：おめでとう

A：これは一体なんですか？

C：何に見える？見本だよ。

A：？

C：ジャクリーンがアメリカ版の編集者になったらどういうふうに見えるかな。

A：ミランダの後任になるの？

C：そして私は全てのコンテンツを編集できるようになる。びっくりした？ジャクリーンはミランダよりずっと若いしね。彼女は新しいアイデアをもっている。アメリカ版ランウェイは高級な雑誌なのは言うまでもない。コスト削減にもなるし。？

A：ミランダガッカリするよ。ランウェイは彼女の人生。彼はミランダにそんなことはできないでしょう。

C：できるよ。パーティーの後に伝えるよ。

A：じゃあ今彼女は何も知らないの？

C：彼女は偉大だよ。だから大丈夫。

A：行かなきゃ。

C：アンディーアンディー大丈夫だよ。ベイビー大丈夫だよ。

A：バカにしないで。

## PART 5

M: もしもし ?

A: よかった、ようやく繋がった !

M: なんですか?

A: 今すぐジャックリースについて話すことがあります、彼女が、、、クリクリクリ、、、

R: はい?

A: ここにちは、ご迷惑をかけて申し訳ないのですが、もしかしたら、、、

M: ついに頭おかしくなったの?

A: ミランダお話をあります

M: 二度と邪魔をしないで

A: でも、、、ちょっと、、、ミランダ!

A: ミランダ、待ってくださいミランダ

お話をあります、アーヴが *Runway* の編集長をジャックリースにしようとしています、

そして、クリスチャンがジャックリーの下で働くと言って、

アーヴは今日この事をあなたに伝えるつもりです。

ですがこのことを伝えれば、あなたがそれを解決できると思って

M: ねえ、フリージアの匂いがしない?

A: え? 、、、使わないように業者には指示をしています

M: もし、フリージアを見つけたら、私はとってもがっかりするわ